

第4期長野県食と農業農村振興計画(案)の概要

第1章 計画策定の基本的な考え方

- 策定の趣旨 「長野県食と農業農村振興の県民条例」の基本理念を踏まえ、食と農業・農村の持続的発展を目指し、方向性を指し示す。
 - 策定年月日 令和5年(2023年)3月予定
 - 計画期間 令和5年度(2023年度)～令和9年度(2027年度)(5年間)
 - 計画の進行管理 毎年度、進捗状況を、食と農業農村振興審議会及び地区部会から意見聴取の上、県議会に報告し公表
 - 計画の推進 県の取組に加え、市町村、農業団体等の「参画」と、県民等の「協働」を基本姿勢として、それぞれが責務と役割をもって一体となり計画を推進
- 食と農業・農村を取り巻く社会情勢の変化
 - ア 人口減少と少子高齢化の更なる進行
 - イ 脱炭素社会構築の必要性
 - ウ 新技術、デジタル化の加速
 - エ 田園回帰に対する意識の高まり
 - オ 新型コロナウイルス感染症の影響
 - カ 国際情勢の変化

【現状と課題】

- ・高齢化の進行による基幹的農業従事者の減少への対応
- ・リタイア農家(農地)の受け皿となる担い手の不足への対応
- ・需要に応じた主食用米の生産と、収益性の高い園芸作物等の導入への対応
- ・世界情勢の不安から、食料安全保障の視点による穀物(小麦等)の生産拡大や生産資材高騰への対応
- ・SDGsの観点から、有機農業を含む環境にやさしい農業の面的拡大と地産地消の拡大への対応
- ・デジタル技術等の活用による省力化・効率化等への対応

第2章 食と農業・農村をめざす姿と施策の展開方向

基本目標

人と地域が育む 未来につづく 信州の農業・農村と食

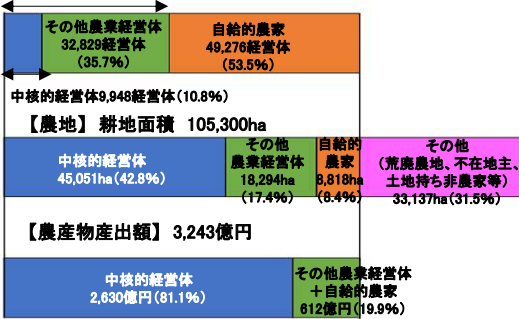
基本目標 (経済努力目標)

指標名	現状 2020年	目標 2027年	目標/現状
農業農村総生産額	3,579億円	3,700億円	103.4%
農産物産出額	3,243億円	3,300億円	101.8%
農業関連産出額	336億円	400億円	119.0%
農業の単位面積当たり生産性	308万円/ha	327万円/ha	106.2%

生産構造の目標

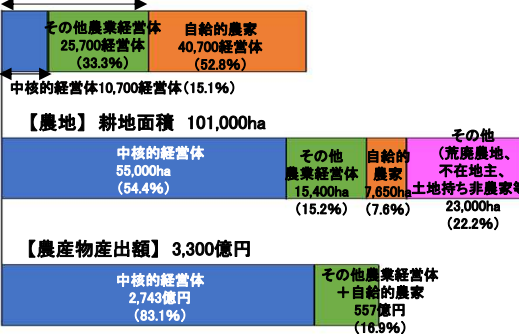
2020年度(令和2年度)

【経営体】総農家等 92,053経営体
農業経営体 42,777経営体(46.5%)



2027年度(令和9年度)

【経営体】総農家等 77,000経営体
農業経営体 36,400経営体(47.2%)



※ラウンド計算のため、合計値が合わないことがある

施策体系

I 皆が憧れ、稼げる信州の農業

施策	【主な施策】
1 皆が憧れる経営体の育成と人材の確保 ア 信州農業をけん引する中核的経営体の確保・育成 イ 新規就農者の安定的な確保 ウ 地域農業の将来像の明確化による担い手確保と農地集積の推進 エ 多様な人材の呼び込みによる支え手の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・中核的経営体への経営発展・安定の支援 ・ニーズに応じたきめ細かな就農支援 ・農地中間管理事業の活用による中核的経営体への農地の集積・集約化の推進 ・家族農業や小規模農業の営農活動を支援 ・半農半Xなど農ある暮らしへの支援
2 稼げる農業の展開と信州農畜産物の持続的な生産 ア くだもの王国づくりの推進 イ マーケットニーズに応える信州農畜産物の生産 ウ 農村DX・スマート農業の推進による生産性の向上 エ 有機農業などの環境にやさしい農業の面的拡大と安全安心な農産物の生産 オ 持続可能な農業を推進するための技術の開発・普及 カ 稼ぐ産地を支える基盤整備の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・果樹産地基盤の強化・生産力向上 ・消費者、実需者から求められる安定的な穀物生産 ・全国トップクラスの園芸産地の維持・発展 ・スマート農業機械・機器の導入、活用支援 ・有機農業等の環境にやさしい農業の面的拡大 ・持続可能な農業を実現するための技術開発 ・集積・集約化等を可能にする基盤整備
3 マーケットニーズに対応した県産農畜産物の販路開拓・拡大 ア 県オリジナル品種など県産食材の魅力・価値の発信 イ 稼ぐ力の強化につながる輸出の拡大 ウ 地域農畜産物の活用による持続可能な新たなビジネスの創出 エ 多様なニーズに対応した流通機能の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・マーケットニーズに沿った商談会の開催 ・輸出関連事業者との連携強化 ・食品産業との連携による農産物の活用促進 ・消費動向等に沿った農産物の新たな需要創出

II しあわせで豊かな暮らしを実現する信州の農村

1 農的つながり人口の創出・拡大による農村づくり ア 地域農業の将来像の明確化による適切な農地利用 イ 多様な人材の活躍による農村の振興 ウ 地域ぐるみで取り組む多面的機能の維持活動 エ 農村型の地域運営組織の組織化推進による農村コミュニティの維持	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域計画」に基づく、農地利用の最適化 ・多様な人材の呼び込みと活躍に向けた支援 ・地域ぐるみで取り組む共同活動への支援 ・地域を支える組織体制づくりを支援
2 安全安心で持続可能な農村の基盤づくり ア 災害から暮らしを守る農村の強靱化 イ 住みやすい農村を支える農村生活基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> ・農業用ため池の地震・豪雨対策を支援 ・農業用水利施設の自動化、遠隔化の整備

III 魅力あふれる信州の食

1 食の地産地消を始めとするエンシカル消費の推進 ア 持続可能な暮らしを支える地産地消・地産地消の推進 イ 有機農産物など環境にやさしい農産物等の消費拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・給食事業者との連携による地域食材活用促進 ・農業版のエンシカル消費の理解促進
2 次代を担う世代への食の継承 ア 伝統野菜など地域ならではの食文化の継承 イ 農業者と関係機関の連携による食育・農育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもから家庭に訴求する食育授業の実施 ・子どもたちへの食や農の学びの提供

達成指標

番号	項目	現状 (2021年度)	目標 (2027年度)
1	中核的経営体数	10,044経営体	10,700経営体
2	長野県農村生活マスターの認定者数	6人/年	15人/年
3	新規就農者数(49歳以下)	212人/年	215人/年
4	中核的経営体への農地の集積率	43%	54%
5	果実産出額	894億円(2020年度)	945億円
6	りんご高密度栽培導入面積	590ha	680ha
7	全国シェアトップクラスを維持する農産物の数	18(2020年度)	18
8	1等米比率の順位	2位	1位
9	施設果菜類等の増収技術導入面積	238ha	273ha
10	乳用牛の1戸あたり平均飼養頭数	52頭	60頭
11	豚熱ワクチン免疫付与による抗体陽性率	88.1%	80%以上
12	信州ブランド魚の生産量(信州サーモン、信州大王イワナ)	357t	485t
13	大規模水稲経営体におけるスマート農業技術導入率	22.9%	50%
14	持続可能な農業に取り組む面積(化学合成農薬・化学肥料を削減した栽培、有機農業)	2,465ha	3,700ha
15	オーガニック・ビレッジ宣言をした市町村数	—	10市町村
16	農業用水を安定供給するために重要な農業水利施設の整備箇所数	37か所	66か所
17	県が主催する商談会による農業者等の成約率	14.6%	20%
18	県産農畜産物の輸出額	17.7億円	28億円
19	6次産業化等の重点支援事業者の付加価値額の向上率	—	110%
20	荒廃農地解消面積	1,329ha	1,300ha
21	都市農村交流人口	198,849人/年	検討中
22	地域ぐるみで取り組む多面的機能を維持・発揮するための活動面積	49,343ha	50,200ha
23	農村型の地域運営組織数	—	10組織
24	防災重点農業用ため池の対策工事の完了箇所数	57か所	127か所
25	水門を自動化・遠隔化した農業水利施設の箇所数	48か所	84か所
26	農業用水を活用した小水力発電の設備容量	4,103kW	5,100kW
27	売上高1億円を超える農産物直売所の数・売上高	63施設 176億円	73施設 186億円
28	学校給食における県産食材の利用割合(金額ベース)	69.5%	75%
29	有機農産物を使用した給食を実施した学校の割合(一品以上)	28%	40%

第4期長野県食と農業農村振興計画(案)の概要

第2章 食と農業農村をめざす姿と施策の展開方向

重点的に取り組む事項

1 信州農業・農村を担う人材の確保・育成と農地の活用

【取組方策】・中核的経営体の「経営発展と農地集積」の促進

- ・就業支援と多様な担い手・支え手の確保
- ・未来を担う若い世代らとの共創による新たな事業の展開

【数値目標】

番号	項目	現状 (2021年度)	目標 (2027年度)
1	中核的経営体数	10,044経営体	10,700経営体
2	長野県農村生活マスターの認定者数	6人/年	15人/年
3	新規就農者数(49歳以下)	212人/年	215人/年
4	中核的経営体への農地の集積率	43%	54%
21	都市農村交流人口	198,849人/年	検討中

2 日本一をめざす果樹(りんご、ぶどう、なし、もも)の産地力向上

【取組方策】・果樹戦略品種の安定生産と品質向上

- ・果樹生産基盤の強化・生産力向上
- ・県オリジナル品種等の魅力発信と輸出拡大

【数値目標】

番号	項目	現状 (2021年度)	目標 (2027年度)
5	果実産出額	894億円 (2020年度)	945億円
6	りんご高密度栽培導入面積	590ha	680ha

3 環境にやさしい農業など持続可能な農業の展開と消費者理解の促進

【取組方策】・環境にやさしい農業への転換推進

- ・農業分野における脱炭素への貢献
- ・農業版エシカル消費の推進
- ・有機農産物など環境にやさしい農産物の消費拡大

【数値目標】

番号	項目	現状 (2021年度)	目標 (2027年度)
14	持続可能な農業に取り組む面積(化学合成農薬・化学肥料を削減した栽培、有機農業)	2,465ha	3,700ha
29	有機農産物を使用した給食を実施した学校の割合(一品以上)	28%	40%

4 信州農畜産物の輸出拡大

【取組方策】・輸出関連事業者との連携強化

- ・輸出相手国の検疫などの規制に対応した産地づくりを支援
- ・品目団体及び他県産地との連携強化

【数値目標】

番号	項目	現状 (2021年度)	目標 (2027年度)
18	県産農畜産物の輸出額	17.7億円	28億円

第3章 地域別の発展方向

地域名	基本目標	主な重点取組	主な達成指標 (2021年/R3 2027年/R9)
佐久	多様な人材で支え合う 持続可能な佐久の農業・農村	○皆が憧れる経営体の育成と人材の確保 ○夏秋期洋菜等のナンバー1産地としての持続的発展 ○農業農村の多面的機能の維持と災害から暮らしを守る防災対策の実施	○新規就農者数(49歳以下) 28人/年(R3)→33人/年(R9) ○堆肥入り化学肥料の施用面積 195ha(R3)→300ha(R9) ○地域ぐるみで取り組む多面的機能を維持・発揮するための活動面積 4,444ha(R3)→4,602ha(R9)
上田	人・食・地域 つながり輝く上小農業	○人と地域をつなぐによる担い手確保と農地利用 ○持続性の高い生産方式への転換と稼げる農畜産物生産 ○食文化の伝承と地産地消の推進	○新規就農者数(49歳以下) 7人/年(R3)→11人/年(R9) ○多目的ネット等の利用面積 59ha(R3)→100ha(R9) ○学校給食の県産食材料割合 46%(R3)→48%(R9) (品目ベース)
諏訪	多様な担い手でつむぎ・守る 自然と共生する諏訪の農業・農村	○諏訪農業をつむぎ・守る多様な担い手の確保・育成 ○高標高を活かした「稼げる」諏訪農畜産物の生産力強化 ○多様な人々が暮らし・守る農村の機能とコミュニティの維持	○中核的経営体数 530経営体(R3)→540経営体(R9) ○セリリーの出荷数量 8,005t(R3)→8,500t(R9) ○地域ぐるみで取り組む多面的機能を維持・発揮するための活動面積 2,663ha(R3)→2,663ha(R9)
上伊那	女性・若者も参画して未来につなぐ 活力みなぎる上伊那農業	○皆が憧れる経営体の育成と人材の確保 ○上伊那の自然環境を活かした多品目農畜産物の持続的生産の推進 ○生産と消費を結び上伊那の食の展開	○新規就農者数(49歳以下) 23人/年(R3)→18人/年(R9) ○アルストロメリアの栽培面積 14.7ha(R3)→15.2ha(R9) ○売上高1億円を超える農産物直売所の売上高 21.7億円(R3)→23億円(R9)
南信州	皆でつなぐ 南信州農業の新たな時代	○皆が憧れる農業の担い手の確保・育成 ○新技術や新品種の拡大による競争力の強い果樹産地づくり ○皆でつなぐ豊かな農村	○ターン就農者数 8人/年(R3)→8人/年(R9) ○日本なしの早期多収省力栽培技術導入面積 4.6ha(R3)→10ha(R9) ○農業水利施設の計画期間内整備量 5か所(R5~R9)
木曾	未来につながる 木曾の豊かな農業・農村と食	○多様な担い手が支え合う木曾の農業・農村 ○木曾ブランドを支える産地づくり ○木曾ならではの食による地産地消と食育の推進	○新規就農者数(49歳以下) 3人/年(R3)→1人/年(R9) ○木曾子牛出荷頭数 5.7頭/戸(R3)→6.0頭/戸(R9) ○伝統食材料提供店舗数 57店(R3)→60店(R9)
松本	持続可能な農業新時代 ～継承しよう豊かな食と農～	○農業を担う経営体の育成と人材の確保 ○持続的な農畜産物の生産と安定供給 ○安全安心で持続可能な農業・農村の活性化	○中核的経営体数 1,924経営体(R3)→2,040経営体(R9) ○りんご高密度栽培導入面積 116ha(R3)→150ha(R9) ○農業用ため池の地震耐性評価の実施箇所数 27か所(R3)→95か所(R9)
北アルプス	「人」と「食」がつながる 北アルプス山麓の農業・農村	○北アルプス地域の農業を支える担い手の確保・育成 ○新技術の活用、持続的な生産、稼ぐ産地を支える基盤整備の促進 ○北アルプス山麓ブランド等を活用した地域振興	○新規就農者数(49歳以下) 4人/年(R3)→6人/年(R9) ○大規模水稲経営体におけるスマート農業技術導入率 38%(R3)→57%(R9) ○北アルプス山麓ブランド認定品目数 123品(R3)→140品(R9)
長野	人と人がつながり 力強く未来へ躍進する長野農業	○全国トップクラスの果樹産地づくり ○多様な人材で支え、皆で取り組む農村づくり ○いつまでも安心して暮らせる農村づくり	○果実産出額 335億円(R2)→354億円(R9) ○農村型の地域運営組織数 0組織(R3)→1組織(R9) ○排水機場の更新等により安全が確保された地域面積 -ha(R3)→570ha(R9)
北信	未来につなげ！ 人と地域が織りなす 北信州の食と農	○人材の確保と皆が憧れる経営体の育成 ○実需者ニーズに対応した北信農畜産物の生産強化 ○食の地産地消の推進と次代への伝承	○中核的経営体数 1,219経営体(R3)→1,250経営体(R9) ○果樹県オリジナル品種等の栽培面積 460ha(R3)→620ha(R9) ○農産物直売所の販売額 18.3億円(R3)→23億円(R9)

地域名	区域	地域名	区域
佐久	小諸市・佐久市・小海町・佐久穂町・川上村・南牧村・南相木村・北相木村・軽井沢町・御代田町・立科町	木曾	上松町・南木曾町・木曾町・木祖村・王滝村・大桑村
上田	上田市・東御市・長和町・青木村	松本	松本市・塩尻市・安曇野市・麻績村・生坂村・山形村・朝日村・筑北村
諏訪	岡谷市・諏訪市・茅野市・下諏訪町・富士見町・原村	北アルプス	大町市・池田町・松川村・白馬村・小谷村
上伊那	伊那市・駒ヶ根市・辰野町・箕輪町・飯島町・南箕輪村・中川村・宮田村	長野	長野市・須坂市・千曲市・坂城町・小布施町・高山村・信濃町・飯綱町・小川村
南信州	飯田市・松川町・高森町・阿南町・阿智村・平谷村・根羽村・下條村・売木村・天龍村・泰阜村・喬木村・豊丘村・大鹿村	北信	中野市・飯山市・山ノ内町・木島平村・野沢温泉村・栄村